

1. 調査目的等

小・義務教育学校1年生から6年生の児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証を行うことを通して、学力向上に関する取組の改善に役立てる。

2. 学校ごとの指標

【中期指標】標準スコアを各学年の平均51以上

【短期指標】標準スコアを各学年の平均50.5以上

3. 指標にむけての取組

- ねらいを明確にした授業の実施(指導→評価→次の指導)
- 重点単元における取り組み(全学級における算数科の分割授業(習熟度別学習)による指導の実施)
- 補充学習(重点単元テスト85点未満児童の再テスト、複数体制による朝の活動の実施)
- 1年生からのきめ細やかな言語指導(MIMの実施)
- 家庭との連携による週末も含めた家庭学習の習慣化(10分×学年+10分)
- 算数科における全時間複数教員による授業体制

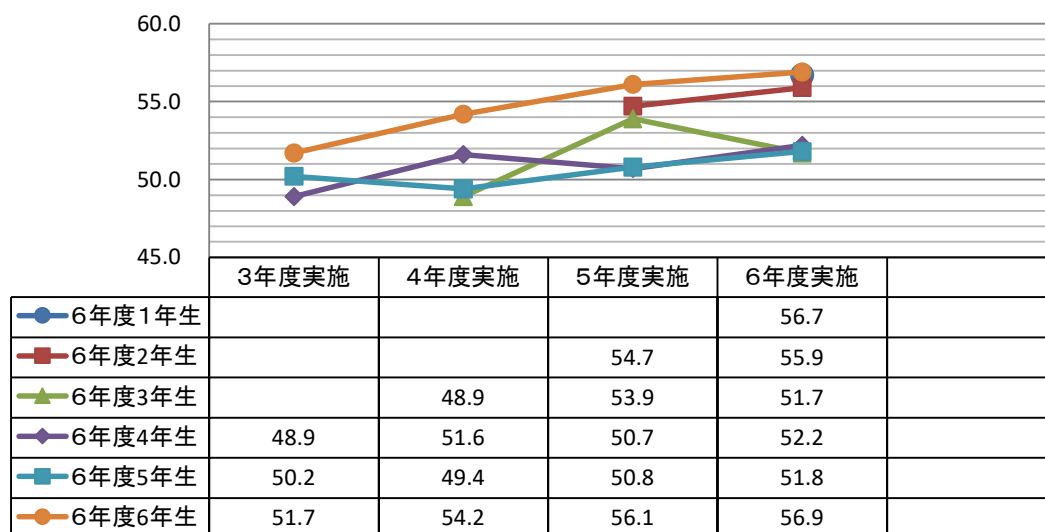
4. 調査結果

※学校平均(国語・算数)4年間の推移

(標準スコア:全国値の正答率を50とした時の換算値)

年度	3年度	4年度	5年度	6年度	
本校(A)	51.2	52.3	54.1	54.1	
嘉麻市(B)	47.0	47.2	48.5	49.8	
(A)－(B)	4.2	5.1	5.6	4.3	0.0
全国値との差 (A)－(50)	1.2	2.3	4.1	4.1	-50.0

各学年の標準スコアの推移



5. 各学校における分析

全校の結果は、国語は54.2、算数は54.0であり、どちらも54をこえ、全国値(標準スコア)を4.1ポイント上回っている。ここ数年毎年確実に力をつけていることから、算数科重点単元における分割授業(習熟度別学習)や、朝活動や習熟場面における複数体制を生かした基礎・基本の定着の取組、読解問題の解説など、日常の指導の取組が有効に働き、一定の成果を上げたと考える。今後も実態をしっかり分析して、児童の力がより発揮できるように、これらの取組を継続させ、個に応じたよりきめ細やかな取組とすることで、さらなる成果につなぐことができると考える。

6. 各学校における今後の取組

【日常の授業や学校生活における取組】

- 指導方法の工夫を今後も継続し、書く活動や交流活動の充実や算数科重点単元における複数体制・分割授業を実施し、学力基盤づくりを推進する。(専科・補助教員の有効活用、授業形態の工夫)
- 朝活動を計画的に行い、複数体制による「ぐんぐんタイム」で、算数や国語について、学級の実態に応じた問題などを行い、基礎基本の定着を図る。
- 「問いづくり」「思考づくり」「価値づくり」を位置づけた授業改善を行う。
- 標準学力調査の結果を公表し、これまでの取組とその成果、今後の課題を保護者等とも共有し、連携して家庭学習の習慣化・個別化の推進を図る。
- 週末も含め、家庭学習の習慣化に向けて(10分×学年+10分)の達成率95%以上を目指す。
- 異学年での取組(6年+1年MIM、4年+2年九九)も継続する。

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◎ 各学校における取組を機能化し、学力向上を図ることができるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行い、周知徹底を図る。
- ◆ 校内における学力向上検証委員会において単元テスト(全単元の80%において目標得点を達成できた児童が学級の80%以上になることを目指す)や各学力向上の取組について検証し、授業づくりや学力向上の取組の更なる改善を図る。
- ◆ 学習評価からの授業づくり、書く活動の設定、ICTの活用という視点から授業改善を図る。そのために、校内研修等に指導主事を派遣し、具体的な指導助言や支援を行う。
- ◆ 小中一貫教育に基づき、組織的・計画的に内容の設定し、個に応じた課題の提示(AIDリルの活用等)を図ることにより、家庭学習の習慣化及び充実を図る。